



©H.Wanibe/JBFA

東京オリンピック・パラリンピック特集号

SPECIAL INTERVIEW

「究極の準備の先に見えたもの」

ブラインドサッカー日本代表 高田敏志前監督

「審判にとっての東京五輪」

山下良美、坊園真琴

「運営の目から見たスポーツの祭典」

東京都サッカー協会運営担当

MATCH REPORT

第76回国民体育大会・関東ブロック大会
第26回東京都サッカートーナメント
WEリーグ開幕戦
第100回全国高校サッカー選手権大会

Jリーグ百年構想クラブ

Criacao Shinjuku
南葛SC



SPECIAL INTERVIEW

ブラインドサッカー日本代表前監督 高田敏志

“究極の準備”の先に見えたもの

©H.Wanibe/JBFA

東京パラリンピックに出場したブラインドサッカー日本代表。高田敏志前監督が率いたチームは大事な初戦でフランス代表を撃破。ブラジルと中国に敗れたものの、5・6位決定戦ではスペインに競り勝ち、初出場で5位という結果を残した。世界ランキングでは10位以下だった日本が、なぜ世界の強豪と渡り合えたのか――。

1%でも勝てる確率を上げられるように

――ブラインドサッカー日本代表は東京パラリンピックを5位で終えました。率直な感想を教えてください。

今までアジア選手権、世界選手権、各国での招待大会に参加してきましたが、パラリンピックは本当の意味での勝負だと感じました。プレーの強度が高く、全てを懸けるという雰囲気があります。我々が目標にしていたメダルには届きませんでしたが、5・6位決定戦ではスペインに勝てました。しっかりと準備をすれば、日本も強豪国と勝負できるところまで来れたのではないかと思います。

――パラリンピックに臨むにあたって、「究極の準備をする」とおっしゃっていました。

東京 2020 パラリンピック競技大会 日本代表メンバー

- FP 川村 怜 (パペレシアル品川)
- FP 黒田 智成 (たまハッサーズ)
- FP 佐々木 口ベルト 泉 (パペレシアル品川)
- FP 佐々木 康裕 (ファンタス千葉SSC松戸ウォーリアーズ)
- FP 園部 優月 (free bird mejirodai)
- FP 田中 章仁 (たまハッサーズ)
- FP 寺西 一 (パペレシアル品川)
- FP 日向 賢 (たまハッサーズ)
- GK 佐藤 大介 (たまハッサーズ)
- GK 神山 昌士 (GLAUBEN FREUND TOKYO)

2021年に発表された世界ランキングでは、日本は13位で、選手はアマチュアでチーム練習は週2、3回という環境です。ブラジルやアルゼンチンの選手はプロですし、中国も代表活動期間中の生活費は全額支給されるそうです。いわば“巨人”と戦わなければいけない。そんな国が本気でやってくるわけですから、普通にやっていたら勝てるはずがありません。自国開催の大会で結果を出すために、1%でも勝てる確率を上げられるのなら、やれることはなんでもやろうと。

――具体的にはどのようなことをしてきたのでしょうか。

最も重視したのはコンディション面です。個人の能力では相手の方が上だとしても、日本の選手たちが持っているものを100%発揮できれば勝機は見えてきます。練習中の心拍数や血中酸素を測って、コンディションを可視化しました。昨日あまり寝られなかったから、調子が良くないなどというのがわかってくる。しっかりと睡眠をとるようになったり、食事に気をつけるようになったり、選手たちの生活習慣が変わってきました。最初は面倒くさいなと思っていたかもしれませんが、最後は自分から見ようになっていきました。アスリートとしての自立につながっていったと思います。

――高田さんが最も効果を実感したトレーニングはあったのですか。

一つ挙げるなら、低酸素トレーニングです。高地の環境を再現した中でトレーニングをすることで、疲れにくい体にするというものです。チームに導入する前に私自身がモニターとして6週間通ったところ、実際に心拍数が上がりにくくなって、疲れにくくなったんです。54歳の私がこんなに変わるんだったら、アスリートはもっと変わるだろうと。

今までは試合終盤になると体力的に落ちてきて、プレスをかけられなくなって失点することが目立っていました。最大の要因は心拍数が上って、筋肉が疲労し、判断が鈍ってしまっていたことです。低酸素トレーニングを取り入れてからは心拍数を短い時間で下げることができて、強度の高いプレーを持続できるようになりました。

——スタッフリストを見ると、管理栄養士、メンタルコーチ、ボイストレーナーなど、たくさんの専門家が関わっていたことに驚かされます。ボイストレーナーの方を呼んだきっかけはファウルの分析です。ブラインドサッカーは6つ目のファウルからPKなのですが、試合の後半にPKをとられて負けることが何度もありました。ファウルの種類や時間帯を分析したところ、「ノーボイ」が一番多かったんです。

相手のボールを取りに行くときに「ボイ！」と言わなければいけないのですが、試合の後半になって疲れてくると声が出なかったり、小さくなったります。そこで発声の練習や、声量を大きくするためにボイストレーニングを受けてもらいました。そうすると、後半になると声が出なかった選手が最後まで出せるようになって、ファウルが減りました。



スーパーゴールは緻密な準備の賜物

——2020年に開催予定だった大会が、新型コロナウイルスの影響で1年延期になりました。それによる影響はありましたか？

かなりあったと思います。国内でのトレーニングキャンプで練習時間は確保していましたが、ゲームでしか分からないことがあります。強豪国と試合をすることで「何をしなければいけないか」「どうすれば勝負できるか」を肌感覚として持っておきたかったのですが……。

——本大会に臨むにあたって、あらゆるシミュレーションをしてきたとのことですが。

気候、移動、立地条件、ピッチのサーフェスなど徹底的に調べ尽くしました。強化合宿では朝起きてから、食事、会場への移動時間、アップ、試合までを本番と全くおなじようにシミュレーションしました。

——初戦のフランス戦では4ゴールを決める素晴らしいスタートとなりました。

大会関係者から「日本はこんなに強かったのか」と言ってもらいましたが、決して偶然ではありません。フランスの試合を何試合も分析していると、5番の選手のデュエル勝率が右側に比べて左側が極端に低いことがわかりました。日本の選手たちには5番が前にいるときは右側に行かず、左側を狙うようにしたところ、面白いように突破できたんです。

——世界の5位に入ったのはスタート地点から考えたらすごいことだと思うのですが、やり切れた感覚はありますか？

第3戦の中国戦はなんとかできたのではないかと思います。悔やまれるのは、第2戦のブラジル戦から24時間もない中で試合をしなければならなかったこと。せめて丸1日リフレッシュできていたら、勝てる確率は十分にあったのではないかと思います。実際に中国は後半になるとかなり落ちて、日本がずっと押し込んでいたのですが、前半の2失点が重くのしかかってしまいました。

——5・6位決定戦のスペイン戦では川村怜選手のコーナーキックから黒田智成選手がダイレクトでボレーを叩き込んだのが決勝点となりました。

パスを出したりリョウ、シュートを決めたトモはもちろん素晴らしいのですが、チームでとったゴールです。あのゴールには布石があるんです。前半はコーナーキックになったら中にパスを入れず、ショートコーナーをして

東京 2020 パラリンピック競技大会 試合結果

予選グループリーグ

8月29日	フランス	○4-0
8月30日	ブラジル	●0-4
8月31日	中国	●0-2

5・6位決定戦

9月2日	スペイン	○1-0
------	------	------

最終順位 5位

全員が自陣側に戻ってから攻撃を組み立て直していました。スペインに直接ボールを入れてこないと刷り込んだんです。何度か繰り返した後、相手がそれを読んで動いてきたことでゴール前のスペースが空いて、フリーで打つことができました。見た目は派手ですが、緻密な準備の賜物だと思います。

——日本代表が見せたサッカーは、世界にインパクトを与えたのではないのでしょうか。

ブラジルのファビオ監督から「プロフェッサー、素晴らしいフットボールを見せてくれたな」と言ってもらえたのはうれしかったです。5位という結果には満足はしていませんが、それでも、どんなに相手が強かろうと、最高の準備をすれば戦えるということは示せたのではないかと思います。

——高田さんは町田市サッカー協会の技術委員やトレセンGKコーチをされていたのですが、今の東京のサッカーを取り巻く環境はどのように見えていますか。

個人的にはカテゴリーを超えてサッカーを見る文化を作っていくべきではないかと思っています。4種は4種の中、3種は3種の中で完結させることはやめた方がいい。そのカテゴリーにいることは長くないのに勝った、負けたばかりを言っても仕方がない。チーム単位ではなく、東京全体で育てていく必要があるのではないのでしょうか。

2017年のえひめ国体のプロジェクトに関わらせてもらったのですが、そこで行ったのもカテゴリーの枠にとらわれずに愛媛県全体でスタッフが関わることです。カテゴリーを「串刺し」にすることでスタッフ間の交流が生まれるし、選手の情報も共有できる。それによって2017年のえひめ国体のサッカー競技では愛媛県が総合優勝しました。

とにかく大事になるのはカテゴリーを「串刺し」につなげて見ること。月に1回は別のカテゴリーを見に行く日をつくるなどの仕組みを作ってもよいでしょう。縦のつながりができれば、中学、高校、大学のチームを選ぶときの連携も取りやすくなるでしょう。良い選手がたくさん出てきて、自分に合ったレベルや環境でのプレーを選べるようになれば、これまで埋もれていたタレントが出てくるかもしれません。東京のポテンシャルはすごいものがあるので、うまく生かせる仕組みをつくるのが重要だと思います。

PROFILE

ブラインドサッカー日本代表前監督 **高田敏志** (たかだ・さとし)



1967年、兵庫県生まれ。小学校時代から青山学院大学卒業までGKとして活躍。高校時代は、1985年の第9回全国クラブユース選手権で大阪府・交野FCの守護神として全国3位に。大学卒業後、サッカーの指導者を目指し、バイエルン・ミュンヘン(ドイツ)、ACミラン(イタリア)などで研修を受ける。2013年よりブラインドサッカー日本代表のGKコーチを務め、2015年11月に監督に就任。初出場した東京パラリンピックでは、初戦で強豪のフランス代表を4-0で撃破。準決勝進出はならなかったが、5位決定戦では欧州王者のスペイン代表を1-0で破り、5位入賞に導いた。



東京FA運営担当が見た“東京オリンピック”



新型コロナウイルスの感染拡大を受けて1年延期され、2021年に行われた東京オリンピック。その舞台裏ではどんなことがあったのか——。東京スタジアムで開催されたサッカー競技に運営担当として関わった、東京都サッカー協会の桶本亨氏に振り返ってもらった。

東京国際ユースのおかげで 海外チームへの“免疫”ができた

「本当にいろいろなことがありましたけど……率直な感想としては『なんとか終わってよかった』ですね」

安堵の表情を浮かべたのは、東京都サッカー協会（以下、東京FA）の桶本亨氏だ。東京FAでは東京オリンピック・サッカー競技の試合会場となった東京スタジアムと新国立競技場（オリンピックスタジアム）の運営面をサポート。その中で桶本氏は中心的な役割を担った。

「オリンピックの運営チームというのは、いわば“寄せ集め”です。プロバパーの人はいますが、東京都、政府、都道府県、区市町村、スポンサーなどから出向して集まってきた人たちによる組織体でした。その中で私たちは主にピッチ周り、競技の運営に関わることを担当しました」

東京FAではサッカーの大会・試合を運営してきた膨大なノウハウを持っている。それらはオリンピックという世界的なビッグイベントで大いに活用されることになった。

特に大きかったのは2008年から2019年まで開催されていた東京国際ユース（U-14）サッカー大会だ。東京都・東京都スポーツ文化事業団・東京FAが主催し、南米、ヨーロッパ、アフリカ、アジアの各国から未来を担う選手たちが集まる国際大会を10年以上運営してきた。

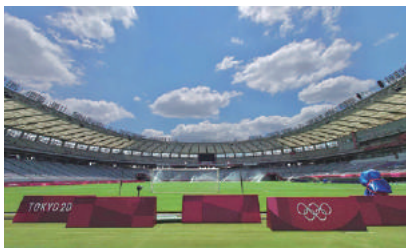
「東京国際ユースが私たちにあって“免疫”になっていたと思います。ブラジルやアルゼンチンは、現実的じゃないようなことでも、とりあえず要求してきたり、駆け引きをしてきたりする。そういうことがあっても面食らうことはありませんでしたから」

サッカー競技はオリンピックの開会式に先立ってスタートした。東京スタジアムでは7月21日に女子サッカーの2試合が行われ、翌22日は日本の初戦を含めた男子サッカーの2試合があった。

「東京五輪代表の初戦というのは、オリンピックに関わる人にとっても特別なものだったと思います。このために準備していた、ここまで来るためにやっていたという感じがありました」

ただ、感慨にふけっている時間はまったくなかったという。試合前日になって日本の初戦の相手である南アフリカ代表にコロナ陽性者が出たことがわかった。一時は試合開催も危ぶまれる中、なんとかキックオフを迎えた。濃厚接触者となった選手のロッカールームを別室で設けるなどの対応をしたという。

“ホームの利”を活かした日本は大事な初戦を勝利で飾った。また、後半から出場した相馬勇紀（名古屋グランパス）は、高校年代まで三菱養和SCユースでプレー。その後早稲田大学を経てプロ入りした生



東京会場開催のサッカー競技

男子サッカー

7月22日 20:00 日 本 1-0 南 ア フ リ カ
7月22日 17:00 メ キ シ コ 4-1 フ ラ ン ス

女子サッカー

7月21日 17:30 スウェーデン 3-0 ア メ リ カ
7月21日 20:30 オーストラリア 2-1 ニュージーランド

※ 8月6日に東京オリンピックスタジアムで開催予定だった女子サッカー決勝は横浜国際総合競技場に変更となった

粋の東京出身選手だ。桶本氏は日の丸を背負ってプレーする相馬を見ながら胸が熱くなったという。

「相馬選手は2013年の東京国体で少年男子が優勝したときのメンバーの1人でした。そんな選手が国体の決勝戦を戦った東京スタジアムで、東京五輪代表としてプレーしている。東京のサッカーに関わる人間として本当にうれしかったです。ぜひ、“次の相馬選手”が出てきてほしいと思います」

心残りだったのは ファンとの接点をつくれなかったこと

東京スタジアムでの2日間の運営を終えた後、次に控えていたのがオリンピックスタジアムで8月6日に行われる女子サッカーの決勝だった。

「陸上競技が夜まで開催されているため、サッカーの運営スタッフが準備に取り掛かれるのは夜10時ぐらい。そこから夜通しで朝の11時キックオフに間に合わせるというスケジュールでした」

刻々と迫る時間の中で全ての準備を終えるために、何度もシミュレーションを重ねてきた。だが、誰もが予想していなかった出来事が起こった。女子サッカーの決勝会場が、試合前日になって横浜国際総合競技場に変更となったのだ。決勝に進出したスウェーデン代表とカナダ代表が暑さを理由にキックオフ時間の変更を申し出たためだった。夜に変更する場合、オリンピックスタジアムでは陸上競技が開催されているため、横浜に変更することが決定した。

「私たちとしてはオリンピックスタジアムでやることを前提に準備をしていました。選手の健康を守るためということは理解しています。ただ、ボランティアの方たちも楽しみにしていたので、前の日の夜にキャンセルの連絡をしなければならなかったのは心苦しかったです」

桶本氏にはもう一つ、心残りに思っていることがある。ブラジル代表の練習会場でチームをサポートしていた時、ある日本人のファンがサインをもらおうと選手に近づこうと試みた時のことだ。

「警備員の制止を振り切って突破しようとしてきたので、私がタックルして止めました。『サインをもらおうぐらいいいだろう』と罵詈雑言を言われました」

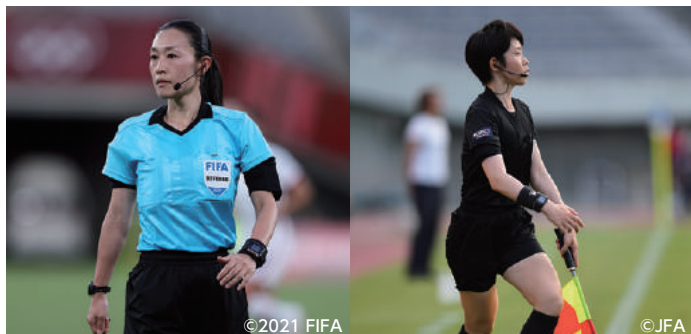
無観客開催となった東京オリンピックではチームや選手が大会関係者以外との接触を禁じるバブル方式がとられていた。桶本氏は選手の安全や、大会の運営のために「彼に恨まれたとしても、私はやるしかなかった」。ただ、と桶本氏は続ける。

「本来であれば東京オリンピックでは生で試合を見たり、選手と触れ合ったりして、一生の思い出になったはず。でも、コロナ禍ということですべてをシャットアウトせざるをえなかった。彼が悪いというより、コロナが悪いといしか言いようがありません」

さまざまな制約がある中で、最後まで日程を消化したことは、東京FAを含めて運営に関わった人々にとっての財産になったのは間違いないだろう。「東京オリンピックは東京都サッカー協会のレガシーになるのか？」と聞くと、桶本氏は少し考えてから答えた。

「オリンピックに関わるのは一生に一度あるかないかだと思いますが、次にまたチャンスが巡ってきた時に、より良い大会にできるようにしたいです。そのために、これからも一つ一つの大会や試合の運営を通じて、選手やチームと向き合いながらやっていけたらと思います」

「地元で開催されたオリンピックに参加できたことが幸せだった」 女子国際審判員 山下良美・坊菌真琴 インタビュー



主審を担当した山下良美さん

副審を担当した坊菌真琴さん

2021年8月に開催された「東京オリンピック2020」の審判団として、東京都出身で国際審判員の山下良美さん、坊菌真琴さんが参加した。オリンピックに参加しての想いなどを聞いた。

お互い一步も引かないシーソーゲームの決勝戦は、PK戦で勝負が決着する

—2015年に国際審判になれましたが、五輪で笛を吹きたいという想いがありましたか？

山下：正直そこまで考えていませんでした。W杯や五輪なんて雲の上のものだと思っていたので、まさか自分がそのフィールドに立つなんて夢にも思っていなかったことで、間近に迫ってからそこを目指して活動するようになったという感じです。

坊菌：実は私、アメリカ対スウェーデンの東京スタジアムのチケットを持っていて、見に行く気満々だったんです。そのくらい参加できると思っていたのになかった証なんですよ(笑)。だからすごいですよね。その試合を実際に自分が担当することになるなんて。これは少し自慢です。

—実際に担当すると決まっていたかがでしたか？

坊菌：五輪はチーム数もW杯より半分くらいに減りますし、審判員もそれくらいになるので、ちょっと難しいかなとは思っていましたが、近づいてきた時にはやるからには目指したいという気持ちは日々強くなっていましたので、素直に嬉しかったです。光栄だなと、本当に思いました。

山下：本当に同じ想いでした。参加できることへの幸せがやっぱり一番強かったです。W杯と違って、サッカーにそんなに興味が無い方たちも声をかけてくださって、自分自身も意識しないでいられないというか、そういう声をいただく頑張らなきゃという想いもありました。

—それもお二人が所属する東京での五輪

坊菌：その想いものすごくありました。国体の時も思ったんですけど、東京で生まれて、東京に育ててもらったという想いがすごく強い。サッカーもそうですし、審判をやり始めた時も東京の方々には時に厳しく、時に優しく、育ててもらったという想いが強かったので、参加できることで何か恩返しといったらおこがましいですけど、五輪で笛を吹くことで恩返しになるのかなと思いました。

山下：五輪が東京で開催されるというだけで大興奮の出来事なのに、それが自分の生まれた育った地であって、そのフィールドに立つことでより感謝の気持ちが強くなったというか、よりそれを返さなきゃいけないという想いが強くなるような感じでした。運良く東京スタジアムの試合を担当することができたので、それもすごく感慨深くて、嬉しかったです。

—実際に東京五輪の雰囲気はいかがでしたか？

坊菌：スタジアムの内側も外側も演出がやっぱりすごい。そういうところからも五輪の雰囲気を感じられたし、担当したのがアメリカやスウェーデンの試合だったので、世界のトップ選手たちが目の前にいて、そういうのに対して本当に心から感動できたんですが、やっぱり感動すればするほど観客がいなかったことへの残念さというか、無念さというか、これを誰も見ることが出来ないんだと。こんなに素晴らしい準備がなされていて、素晴らしい環境が整っているのに誰も見ることが出来ない、なんてもったいないんだろうって。今回は本当に仕方がないというのはわかっているん

ですけど、それに関しては本当に残念だなと思いました。

—印象に残っていることはありますか？

山下：やっぱりVAR(ビデオアシスタントレフェリー)については大きな場面ではあるので、印象に残っていますね。

坊菌：私はスウェーデン対アメリカの試合ですごく難しいオフサイドの判定があって、ノットオフサイドでゴールを認めたという判定があったんですけど、それはすごいきわどかったし、VARのチェックですごく時間がかかっていて、あとで見返すとそんな大した時間でもなかったんですけど、私にとってはもうすごく長く感じて、その結果を待っている時の心拍数はその試合で一番高かったと思います(笑)。でも結果は合っていたのでよかったです。

山下：VARからも「エクセレント」と。

坊菌：VARではそういうコミュニケーションが取れるのでいいなと思います。一この経験を今後はどう生かしていきたいですか？

山下：世界中の審判員と一緒に大会を作っていくので、周りの審判員から受ける刺激というのも大きいですし、その中で自分はどうしようとか考えること自体がもう次に繋がっていくものだと思いますし、次に生かしていかなければいけないなと思います。

坊菌：FIFAではいつも副審のトレーニングでオフサイドの見極めもすごく多いんですけど、今回VARが入っていることもあって、そのトレーニングというのがほとんどなかったんです。それはすごく大きな変化、時代の変化だなと思っています。じゃあ副審の役割は？と言われれば、もっとさまざまなことが副審に求められているなと思うので、レフェリーとのコミュニケーションだったり、チームとしてしっかり正しい判定になるようにしていく力だったり、そういうまた別の力も求められていて、それをこういった大きな大会で感じることもできたので、そういったところを意識して国内でもまた取り組んでいかなきゃいけないなと思いました。

—お二人のご活躍を見て審判員を目指したいという女の子も増えたと思います。その子たちに対してメッセージをお願いします

坊菌：私自身も選手しか考えていなかったんですけど、1回だけという気持ちでやってみたら、本当に違う景色というか、選手の時だったら見えなかった景色があった。同じフィールドで同じ景色のはずなんですけど、立場だったり、役割が変わるだけでこんなに見え方が変わるんだという発見は本当に大きいし、その感動はいまでも覚えているので、一度挑戦してみることその発見を体験してほしいなというのをすごく感じます。

山下：一応伝えておきたいのは楽しいだけじゃないということ(笑)。それでもやり続けたい子は何かを得られるかもしれないので、やってみてほしいという気持ちはあります。

坊菌：楽しいからやってみなよ、とは簡単に言えるような仕事じゃないかなとは良い意味で思います。ただ楽しくないわけじゃなくて、やっぱり審判員は責任が重いですし、でもその責任の重さがやりがいに繋がってくると思います。

—最後にお二人にとっての審判とは

山下：最近気づいたというか、知っていたのに気づかされたのは、(審判は)サッカーの魅力を引き出す役割ということ。それって私たちの役割だと気づいた時にすごく魅力を感じました。

坊菌：絶対にそれが正解。それ以上のものは浮かばないですね。



オリンピック前、広島で行われたなでしこジャパン親善試合も一緒に担当した



2年連続で本大会は中止が決定

第76回国民体育大会 関東ブロック大会

主 催：公益財団法人日本スポーツ協会／栃木県／関東ブロック各都県教育委員会、関東ブロック各都県体育（スポーツ）協会
日 時：2021年7月11日、8月21～23日
会 場：栃木県グリーンスタジアム、緑新スタジアム YAITA、矢板運動公園サッカー場、真岡市総合運動公園陸上競技場

「第76回国民体育大会関東ブロック大会」が栃木県で行われた。各カテゴリーの東京都代表の戦いぶりを振り返っていく。女子、成年男子の試合は無観客で行われたため、監督へ後日インタビューを行った。なお、9月に開催予定だった「三重とこわか国体」は新型コロナウイルスの影響によって中止となっている。

少年男子

前半の大量失点が響くも 終了間際に一矢を報いる

前半を折り返した時点で、ほぼ勝敗は決まっていた。キックオフから千葉の攻勢を受けた東京は、15分、28分、33分、41分と立て続けに4失点（今大会の少年男子は試合時間90分で行われた）。後半での逆転は極めて難しい状況に追い込まれた。

「早い時間で失点したことで、チーム全体がバタバタしてしまった」
佐藤実監督（堀越高校）が振り返ったように、東京と千葉の差を分けたのは試合の入りだった。スタートからゴールを貪欲に狙ってきた千葉に試合の主導権を握られてしまう。

「どういうふう仕掛けてくるのかを見てしまったところがあった。もっとアグレッシブに守備に行けばよかったのですが……」

右サイドバックの中村健太（堀越高校）は前半のプレーを悔やんだ。東京にとって脅威となったのは千葉の堀川大夢（流通経済大学付属柏高校）だった。ボールを失わないテクニックとパンチ力のあるシュートを兼ね備えた堀川には2ゴールを決められている。

「ドリブルがうまくて、どっちに行くかわからなかった。ディフェンスを外してからシュートまでが早かった」

新型コロナウイルスの蔓延による緊急事態宣言が出たことで、チーム活動は大幅な制限を余儀なくされた。本大会までに行えたのはわずか8セッションのみ。スカウティングもほとんどできなかった。どんな選手がいるのか、どんな戦い方をしてくるのかも未知数だった。

佐藤監督は「試合の流れを変えなければいけない」と早めに手を打つ。39分に1枚目の交代カードを切ると、ハーフタイムには2枚替え。後半のスタートから投入された尾川丈（川崎フロンターレU-18）はピッチの外から見ながらイメージを膨らませていたという。

「自分が入ったら攻撃にもっと厚みをもたせたかった。相手が下がった



4点差となっても最後まで戦い抜いた

こともあって後半は押し込むことができていたと思います」

後半は東京の時間帯が長くなった。シュート数は東京が5本、千葉が2本。何よりも変わったのはゴールへ貪欲に向かっていくようになったことだ。右サイドから積極的な攻撃参加を見せた中村は言う。

「ハーフタイムに、失うものはないから後半は前からどんどん行こうと話しました」

4点差となっても試合を投げるような選手は1人もいなかった。

東京の攻撃が実ったのは89分。

後半から起用された尾川がGKとの1対1の決定機を迎えると、いったんはGKに弾かれたものの、こぼれ球を押し込んだ。尾川はゴールネットからボールを拾い上げた。1点でも多く取り返すという強い意志の表れだった。

「選手たちは4点差になってからも気持ちを切り替えてやってくれました。最後に1点取ったことは彼らの未来につながるんじゃないかと思います」

自分たちの良さを全く出せなかった前半の45分。最後まで諦めずに戦い抜いた後半の45分。どちらの時間も東京の選手にとっての糧となったのは間違いのないだろう。



後半から投入されてゴールを決めた尾川丈



右サイドを果敢に攻め上がった中村健太

試合結果

【成年男子】	8月21日	vs 茨城県	● 0-1
【女子】	8月21日	vs 栃木県	○ 1-0
	8月22日	vs 埼玉県	○ 3-0
【少年男子】	7月11日	vs 千葉県	● 1-4

◆ 本大会出場決定 ◆

女 子

綿密な戦略を立てて
実力差をひっくり返す

緻密な戦略の賜物だった。

東京の女子は1回戦で栃木県に1-0、2回戦で埼玉県に3-0と2勝してストレートで本大会行きの切符を手にした。

「本当に1人1人の選手が自分の役割を果たしてくれたおかげです」

八鍬晶子監督（十文字学園女子大学）が国体チームの監督を引き受けた時点では、最高の結果が待っていることはイメージしづらかったという。

「WEリーグができたことや、大学リーグが通年になるなど、女子サッカーの環境が変わったことで、例年以上にチーム作りは難しかったです」

八鍬監督は過去に山梨県と群馬県で国体の監督を経験している。他の県と東京で最も違うのは「選抜チーム」で戦うということだった。1チームの選手だけで構成する場合、普段の活動をそのままチームに持ち込める。ただ、選抜チームの場合はそうはいかない。

「他の県で出場した時は自分が普段から見ているチームをベースにつくれます。そういう面では今回は自分にとって新しいチャレンジでした」

八鍬監督が選考基準で大事にしたのは「しっかりと守備ができること」「ストロングポイントを持っていること」だった。

「他の県の出場するチームのカテゴリーや選手のレベルを見た時に、劣勢の時間が長くなるだろうと予想しました」

国体のメンバーが決まってから本番までに活動できたのはわずか6回。2泊3日の事前合宿では守備の約束事をチーム内で共有することに時間を割いた。

1回戦では開催地である栃木戦。前半終了間際に決まった虎の子の1点を



チームが一つになって結果を出した

守り切って、1-0で勝利。本大会出場がかかった2回戦へと駒を進めた。

浦和レッズユースの単独チームだった埼玉戦。勝利を引き寄せたのは粘り強い守備と、徹底的な相手の分析だった。八鍬監督は「飲水タイムまでに絶対に点を取ろう」と送り出すと、それは現実のものとなった。

13分、左サイドバックの長若奈（FC町田ゼルビアレディース）が打ったロングシュートが決まったのだ。実は、埼玉のGKが小柄だったことから積極的に狙っていかうと話していたものだった。

35度という炎天下での2連戦。「1点差では苦しくなっていく」（八鍬監督）と予想していた東京に2点目が生まれる。43分、ミドルシュートが相手に当たったのオウンゴールとなった。試合終了間際には石谷唯華（十文字学園女子大学）がドリブルからゴールネットを揺らした。

「本大会でもっと彼女たちの良さを組み合わせて、もっと楽しませたかったなと思います」

「三重とこわか国体」が中止となったため、本大会に出ることは叶わなかったが、東京が見せた2つの勝利は決して色褪せることはない。



監督

八鍬晶子（十文字学園女子大学）

成 年 男 子

東京の社会人チームが
“同じ船”に乗って戦う

2019年——。成年男子は関東ブロック大会で本大会出場を逃した。2大会連続でチームを率いることになった福田雅監督（東京武蔵野ユナイテッドFC）は国体への特別な思いを口にする。

「社会人サッカーのチームが同じ船に乗って戦えるのは国体ぐらいしかありません。東京を背負ってプレーできるのは本当に光栄なこと。個人的には社会人カテゴリーにおける国体のステータスをもっと上げたいという気持ちがあります」

今大会の成年男子は福田監督が関わるTOKYO UNITED FCの選手が中心となった。それ以外は清水光（東京23フットボールクラブ）、加藤勇司（東京23FC江戸川）、関根宏一郎（アストラ倶楽部）に加えて、国体の経験が豊富なベテランの都丸昌弘（東京武蔵野ユナイテッドFC）。16人中12人を同じチームから招集したのは、明確な狙いがあった。

「ハードワークができるTOKYO UNITED FCの選手たちでしっかりと固めて、タレントがある攻撃的な選手を組み合わせよう」

福田監督が率いた前回大会では複数のチームから選手を招集する、パリエティに富んだチームで臨んだものの2連敗。同じ轍は踏まない——。今回こそはと本大会出場を狙った。

1回戦で当たることになったのは茨城県。これまで関東ブロック大会では東京の前に何度も立ちはだかってきた、「鬼門」といってもいい存在だ。これまでの茨城戦では運動量で上回られて押し込まれることが目立った。

「国体の試合は真っ昼間にやるので消耗が激しい。先制点をとって、自分たちのペースで試合をできるかが大事になってきます。下手に守りに行って失点しようと苦しくなってしまう」

国体の試合時間は70分と短いため、必然的に1点の重みが増す。福田監



強豪・茨城を追い詰めたが1点に泣いた

監督が試合前に伝えたメッセージは「攻撃は最大の防御」。4-4-2の攻撃的なシステムで、キックオフから積極的にゴールを狙っていくという戦い方を選択した。

スコアが動いたのは24分。動かしたのは、茨城だった。コーナーキックからのヘディングシュート。セットプレー1発によって東京はビハインドを背負うことになった。それ以降は「6対4、7対3ぐらいで東京ペースだった」と福田監督が言うように、ボール支配率で上回って押し込んだ。それでも、茨城の強固な守備をこじ開けることはできなかった。

「緊張感のある、すごく良い試合だったと思います。だからこそ、勝たせてあげることができなくて申し訳ないなという気持ちです」

次こそは社会人カテゴリーの力を結集し、本大会出場を果たす。そのための戦いはもう始まっている。



監督

福田雅（TOKYO UNITED FC）



駒澤大が法政大を PK 戦の末に下し 3 年ぶり 2 回目の優勝! 14 回目の天皇杯出場へ 第 26 回東京都サッカートーナメント



主 催：(公財) 東京都サッカー協会
共 催：東京新聞・東京中日スポーツ、共同通信社
日 時：2021 年 5 月 9 日 (日)
会 場：味の素フィールド西が丘 (無観客)



第26回東京都サッカートーナメント決勝

駒澤大学 2-2 法政大学

0	(前半)	1
1	(後半)	0
0	(延長前半)	1
1	(延長後半)	0
4	(PK)	3

得点者：14分 中井崇仁 (法政大) 51分 荒木駿太 (駒澤大) 94分 中川敦瑛 (法政大)
110+2分 中村一貴 (駒澤大)

「第 26 回東京都サッカートーナメント」が 5 月 9 日に行われ、駒澤大学が法政大学を PK 戦の末に下して 3 年ぶり 2 回目の優勝。
第 98 回 (2018 年) 大会以来 14 回目の天皇杯出場を決めた。

お互い一歩も引かないシーソーゲームの決勝戦は、 PK戦で勝負が決着する



駒澤大と法政大。今年の決勝は東京を代表する大学同士の一戦となった。両雄は先に開催された関東大学リーグ開幕戦で対戦。その際は法政大が 3-1 で勝利していた。

この日も先にスコアを動かしたのは法政大だった。14分、狙いとしていたサイドからの攻撃で右サイドDF陶山勇磨のアーリークロスに対しディフェンスのクリアが不完全となったところをFW中井崇仁が左足のダイレクトボレーを突き刺し先制した。

一方、先制点を与えた駒澤大だが、「リーグ戦ではびびってしまってラインが下がってしまい、コンパクトにできずに結構間延びとかもあって自分たちらしさが出せなかった」(DF猪俣主真主将)という反省を生かし、怖がらずにライン間をコンパクトに。また「ボールを保持する時間は相手の方が長い。うちとしては動き出したり、予測したり、すべての面で早く準備するというのが大事と話はしてきた」と秋田浩一監督が言うように出足の速い守備を見せると、「駒澤らしい」球際の強さや走力といった部分で前半中盤以降は流れを握った。

後半からはFW宮崎鴻らを入れて攻撃のギアを一段アップ。すると51分、宮崎とのワンツーで抜け出したMF荒木駿太が切り返しから左足で流し込んで同点に追いついた。

その後、試合は90分で決着が着かず延長戦へ。法政大は94分、MF中川敦瑛が左足の強烈なミドルシュートを突き刺して再度リードを奪うが、駒澤大は110+2分、ゴール前で味方が競ったボールをMF中村一貴が土壇場で決めて再び同点となり勝負の行方はPK戦に突入。4-3で勝利した駒澤大が栄冠を掴んだ。

中村一貴がラストプレーで値千金の同点弾 直前のプレーで負傷も左足振り抜き大学初ゴール

「(ゴールの瞬間は)正直あまり覚えていなくて。日頃の練習からFWが競った後にこぼれるのを狙ってひたすら行き続けるというのを自分がBチームの頃からずっとやっていた。いまはいないんですけど、岩本(哲也)コーチという人に本当にお世話になって、その人に鍛えられたので、自然と身体が動いて、こういう舞台上で結果を残せたことはとても嬉しく思います」

延長後半からピッチに立った中村は迎えたラストワンプレー、味方FWが競ったこぼれ球にいち早く反応するとチームを救う起死回生の同点弾を決めてみせた。

実は直前のプレーで相手選手と接触し左足を負傷していた。シュートを打ったのはその左足。「ボールがこぼれてきて蹴ったら痛いんだろうな」と思ったというのが、「とにかくゴールにねじ込むという感覚だった。入った後はもう動けませんでした」。PK戦は蹴ることができず仲間たちに託したが、チームは中村が作ったチャンスを生かし見事優勝を飾った。

これが大学サッカーでの記念すべき初ゴール。中村は「天皇杯で東京都の代表になるという目標は叶えられたので、ここに満足せず、目標を一個一個叶えて最終的に今年の最後のインカレでチームの集大成を見せられれば良いかなと思っています」と意気込みを語った。

迎えた5月22日、駒澤大はJ2のSC相模原を相手に前半を1-1で折り返すものの、その後2失点を許し、1-3で敗退。駒澤大の挑戦は1回戦で終わった。

田部井涼主将「隙があった」 法政大は2年連続の決勝敗退

法政大は普段の2ボランチではなく、MF松井蓮之をアンカーに置く4-1-4-1システムを採用。田中和樹、今野息吹の両ワイドのスピードを生かしながら押し込むところを狙っていた中で先制点に繋がったが、その後は中盤をはっきりと越すようなフィードや1アンカーの両脇のスペースを突かれるなど苦戦。その中でもリードを奪う形でゲームを進めたが、MF田部井涼は「隙があった。失点の時間帯であったり、入りのところや延長の最後、勝つべくして勝つチームというのは絶対にそういう時間に気を抜かない。もしかしたら練習の初めと最後に集中力が欠いていくかもしれない。そこを修正しないとこのゲームに負けた意味がなくなってしまうので、来週からリーグ戦に向けて改善していきたい」と反省した。

2年連続の決勝での敗退となったが、それでもFW飯島陸の復帰や期待の1年生MF中川のゴールは今後に繋がる材料。長山一也監督は「(中川が)こうやって結果を残したというのは今後の活躍に繋がるかなと思いますし、逆にこういうゲームで彼をヒーローにしてあげられなかったというところはチームとしてももう少し良い状況を作ってあげられたら良かったなというのはありますけど、今後が楽しみな活躍をしてくれた。もっともっとチームの中で競争を増やして、下からまた出てくるような状況もあると思うので、そういう選手と一緒に切磋琢磨してチーム力を上げていければと思います」とした。



日本初の女子プロサッカーリーグ WE リーグが開幕



Yogibo WEリーグ第1節

日テレ・東京ヴェルディベレーザ 1 - 2 三菱重工浦和レッズレディース

1 (前半) 0
0 (後半) 2

得点者: 33分 植木 理子、49分 菅澤 優衣香、88分 塩越 柚歩

主催：公益財団法人日本サッカー協会／一般社団法人日本女子プロサッカーリーグ

日時：2021年9月12日

会場：味の素フィールド西が丘

日本初の女子プロサッカーリーグとなるWEリーグがスタート。5つの開幕戦のうちの一つが東京・味の素フィールド西が丘で行われ、三菱重工浦和レッズレディースが日テレ・東京ヴェルディベレーザに2-1で勝利。浦和はライバルからの逆転勝利で、WEリーグの初代女王に向けて好スタートを切った。

チケット完売、入場制限の中でWEリーグが熱い船出



WEリーグの初年度は11チームでスタート。その中でも、2020ブレナスなでしこリーグ1部を制した浦和と皇后杯 JFA 第42回全日本女子サッカー選手権大会の覇者・日テレ・東京ヴェルディベレーザ（以下、東京NB）は優勝候補の呼び声が高く、両チームの対決は注目カードとなった。残念ながら、コロナ禍によりスタジアムの入場者数が収容定員の50%以内に制限されたため、前売り券は発売直後に完売。2,427人のプラチナチケットを手にしたファン・サポーターは、記念すべき試合の一挙手一投足を見逃すまいと身を乗り出し、スタンドは拍手と熱気に包まれた。

WEリーグの岡島喜久子チェアが開会宣言を行い13時30分にキックオフ。立ち上がりから、浦和の浅いディフェンスラインと激しいプレッシャーに、東京NBがコンパクトな陣形に対抗し、両チームが中盤での組み立てに苦しむ。23分の飲水タイムを境に東京NBは浦和のディフェンスラインの裏へ送るボールが増え、積極的な仕掛けが目立ち始めゲームが動く。

東京NBの先制点は33分。右ウイングの遠藤純がサイドに走り出し、マークについた浦和のセンターバック・南萌華を外に引き出す。その空いたスペースに走り込んだFW植木理子がパスを受け、ドリブルで前進しながらゴール左のFW小林里歌子へパス。小林からの折り返しのパスを再び植木がゴール右で受け、至近距離からゴールマウスにシュートを流し込んだ。実に東京NBらしいダイナミックなパスワークから得点生まれ、味の素フィールド西が丘は大きな拍手に包まれた。

浦和は後半からエースの菅澤優衣香を投入。この交代により、前半はワントップを務めた安藤梢が右サイドにポジションを移す。東京NBは、このポジションチェンジへの対応が定まらないうちにピンチを迎える。後半開始早々の49分に安藤が右サイドを突破。ディフェンスラインの裏に猛スピードで抜け出す。勢いもそのままにニアサイドに走り込んだ菅澤に低く速いピンポイントクロスを入れると、菅澤はこれをダイレクトでゴールに叩き込んだ。浦和の試合巧者ぶりが発揮された電撃的な同点劇であった。

その後も、開幕戦に相応しく、両チームの積極性が伝わる試合が続く。選手が激しくフィジカルコンタクトしボールを奪い合う。浦和は62分に、

中盤のキーマンである栗島朱里が足を攣り遠藤優を投入。今度は、安藤がボランチにポジションを下げた。こうしたアクシデントの選手交代でポジションを入れ替えても、攻撃のクオリティや守備の強度が落ちないのが今の浦和の強さだ。特に安藤は、ワントップ、右ウイング、ボランチの3つのポジションでフルタイムを走り続けた。

安藤はチームのレジェンド。2002年に三菱重工浦和レッズレディースの前身であるさいたまレイナスFCでなでしこリーグデビュー。浦和のタイトル獲得に貢献し、10年前のFIFA女子ワールドカップ ドイツ2011の世界一メンバーでもあった。「本当に素晴らしい。39歳とは思えない（同点時の）突破だった。ボランチに下げてもゲームコントロールできる。頼りすぎて足を攣るまで酷使してしまった」と、浦和の楠瀬直木監督は、試合後の囲み会見で安藤を称賛した。

熱戦にけりをつける決勝点は88分。土壇場の東京五輪メンバー入りで「ラッキーガール」と呼ばれた浦和MF塩越柚歩の右足から生まれた。FW島田芽依のシュートのこぼれ球を拾った塩越は、後ろ向きに背負った東京NBのDFを交わし、振り向きざまに放った強烈なシュートがゴールネットを揺らした。

逆転を許した東京NBは、アディショナルタイムに植木がヘディングシュートを放つもゴールには至らず、WEリーグ開幕戦は悔しい敗戦となった。



先制点を決めた東京NB植木理子

試合後、植木は両膝に手をついて、緑のピッチに涙した。このスタジアムで第1戦を戦えたことに大きな意味がある。キャプテンの清水梨紗は開幕記者会見で、このように語っていた。

「今までは色々なスタジアムでホームゲームを開催していましたが、今シーズンから特定のスタジアムでホームゲームを開催できるのは嬉しいです。西が丘は観客席との距離が近いことが印象的で、ファンやサポーターの声援を近くに感じる、すごく良いスタジアムです」

東京NBはホームゲーム全10試合のうち9試合を味の素フィールド西が丘で開催。（1試合は味の素スタジアムでのJ2リーグと同日開催）この地で女子プロサッカーリーグの歴史を歩んでいくのだ。この日、日本の女子サッカーに、新たな歴史を刻み込んだ味の素フィールド西が丘は、次世代にまで「女子サッカーの聖地」として記憶されることになるだろう。

中断期間を挟み3月に再開したWEリーグ。第13節を終え東京NBは1位の神戸と勝ち点差9で2位につける。WEリーグ初女王の座を目指して巻き返しを図る。



©2021 Criacao

サッカーの力で多様性を生かす社会を

クリアソン——ポルトガル語で「創造」を意味するクラブが創設されたのは2005年のことだ。もともとは立教大学などのサッカーサークルを引退した4年生たちのつながりが出発点だった。代表の丸山和太が当時を振り返る。

「大学サークルで日本一になったのですが、その時にサッカーのもたらす価値の大きさを感じたんです。出ている選手も出ていない選手もみんなに役割があって喜びを分かち合った。それが自分の原体験となっています」

チームの創設期から掲げられているビジョンは「世界一のサッカークラブを目指す」。大学卒業後に大手商社に就職し、関西勤務になっていた丸山が東京に戻ってきたことをきっかけに、本格的に「世界一」への挑戦が始まった。2009年、東京都社会人4部リーグに参入すると、1つ1つカテゴリーを上げていった。2013年には株式会社クリアソンを創業する。

「何のためにサッカーをやっているのか、どうしてJリーグを目指すのか、僕たちはどんな存在になりたいのかを徹底的に話し合っ



©2021 Criacao

新宿で行われるイベントに積極的に参加している

て、クラブ理念に落とし込んでいきました」

2018年はクラブにとってターニングポイントとなった。ホームタウンを新宿区にするとともにクラブ名も「Criacao Shinjuku」に改称したのだ。なぜ新宿だったのか——丸山には明確な意図があった。

「新宿には34万人の方が住んでいて、そのうち10%強が外国籍の方です。オフィス街、繁華街、学生街など、狭いエリアに本当に多様な人たちが共存しています。そこに強い共感を覚えました。僕たちが考えているサッカーというスポーツの特性は、他者の違いを認め、お互いをリスペクトし、自らの強みを組織の力に変え、仲間と支え合うということ。それを体現しているのが新宿だったんです」

初専任監督として成山一郎を招聘した2018年には関東社会人サッカー大会で優勝し、4度目にして「関東の壁」を突破。関東リーグ2部では参入初年度で優勝し、関東1部へと駆け上がった。

東京23区初のJクラブ誕生へ

2019年には“大型補強”でサッカー界を驚かせている。徳島ヴォルティスを退団した井筒陸也が、新天地として当時関東2部だったクリアソン新宿を選んだのだ。J2で33試合に出場していた25歳がカテゴリーを4つも上げてまで加入したのは、クラブの理念に共感したからに他ならない。

「Jリーグでやっている時から、外の世界に興味があったんです。Jリーガーじゃなくなった自分に何ができるのか。丸山代表とは大学時代から知り合いだったので、ここだったら人間として成長できるんじゃないかと思ったんです」(井筒)

その後も横浜F・マリノスで活躍した小林祐三などJリーグ経験者が次々に加入。とはいえ、クリアソン新宿にはサッカーだけをやるプロ契約選手はいない。株式会社クリアソンの社員として働く者、他企業で働く者、学生と様々だ。

サッカーとビジネスを両立する——。それこそがクリアソン新宿が創設期から追い求めてきたものであり、今後も変えるつもりはないと丸山

Criacao Shinjuku 「サッカーの持つ価値を 創造し続けたい」

「サッカーを通じて、世の中に感動を創造し続ける存在でありたい」を理念とするクラブがある。2022 シーズンから JFL に参戦する Criacao Shinjuku (クリアソン新宿) だ。多様性の象徴的な街である新宿をホームタウンとするクラブが目指すものとは。

は言う。

「サッカーの実力だけではなく、クリアソンの文化や価値観に合うのかという人間性や考え方を大事にしています」

2021年2月、クリアソン新宿はJリーグ百年構想クラブに認定された。新宿区との関係性や、大きな経済圏がある新宿で活動するポテンシャルを評価されてのものだ。ただし、現時点ではホームスタジアムについての見通しは立っていない。

「新宿という場所を選んだ時から、スタジアム問題はどこかでぶつかるのはわかっていました。ただ、僕たちにとっては新宿だからできること、やりたいことがあるんです」

新宿区内には6万8000人を収容する新国立競技場がある。現時点では日本最大級のスタジアムで試合をするのは現実的ではないかもしれない。ただ、クリアソン新宿が多くの人に応援されるようになれば、新たな道が切り開かれていくかもしれない。

「新宿をはじめ、クリアソン新宿の思いに共感してくださるみなさんと共に、JFLというカテゴリーへ全力でチャレンジします」

東京23区初のJクラブ誕生へ——。クリアソン新宿は新たな一歩を踏み出す。



©2021 Hironoshin.F

キャプテンとしてJFL昇格に導いた井筒陸也

基本情報

設立	2005年	ホームタウン	東京都新宿区
代表	丸山和太	所属カテゴリー	JFL

クラブヒストリー

- 2005年 Criacaoとして創設
- 2009年 東京都社会人リーグ4部に参入
- 2013年 東京都社会人リーグ1部に昇格
- 2014年 東京都社会人リーグ1部で優勝
- 2018年 クラブ名およびトップチーム名をCriacao Shinjukuに改称
関東リーグ2部に昇格
- 2019年 関東リーグ1部に昇格
- 2021年 Jリーグ百年構想クラブ認定
- 2021年 関東リーグ1部優勝、地域CL優勝、JFL・地域リーグ入れ替え戦に勝利し、JFL昇格

PROFILE



Criacao Shinjuku 代表
丸山和太

南葛 SC

『キャプテン翼から
生まれたクラブ』

『キャプテン翼』の原作者、高橋陽一が代表を務める南葛 SC。稲本潤一や今野泰幸など地域リーグでは異例とも言える大型補強で話題を集めたのは記憶に新しい。下町・葛飾からJリーグ参入という夢に向けて突き進んでいる。

ネックとなるのがスタジアムだ。現時点では葛飾区にはJリーグはもちろん、JFLの開催基準を満たすスタジアムもない。

「何年も前からずっと動いてきています。簡単ではありませんが、なんとしても実現させたいです」

2021年、初挑戦の関東2

部で2位になって1部チームとの入替戦に回ると、桐蔭横浜大学FCに4-1で勝利し、関東1部への切符をつかみとった。次の目標となるのはJFL昇格だ。

関東1部リーグを勝ち抜いた先には、地域チャンピオンズリーグが待っている。1次ラウンドでは3日で3試合、決勝ラウンドでは1日おきに3試合という日程を戦わなければならない。南葛SCはどんなプランを描いているのか。

「最後の連戦のことを考えると、2チームつくれるぐらいの選手層が必要になってきます」

SC相模原から稲本潤一、ジュビロ磐田から今野泰幸、ベガルタ仙台から関口訓充、横浜FCから伊野波雅彦。日本代表でもプレーした選手を何人も呼び寄せたところに南葛SCの本気度がうかがえる。

「FC東京さん、東京ヴェルディさん、FC町田ゼルビアさんは西東京で主に活動しています。少しでも早くJリーグにたどり着いて、東東京にサッカーのある日常を多くもたせられるように頑張りたいです」



©NANKATSU SC/ 松岡健三郎

「ボールはともだち」がチームのコンセプト

サッカー漫画の金字塔、『キャプテン翼』——。

その作者である高橋陽一が代表を務める南葛SCは、漫画に登場する主人公・大空翼の小学校時代のチームと同じ名前だ。1983年に創設された常盤クラブを母体とするクラブは、葛飾出身の高橋を後援会長に迎えた2013年から南葛SCと改称。Jリーグ入りへの本格的な挑戦が始まった。

「Jリーグに上がるためには1年1年が勝負になります」

そう語るのは岩本義弘GMだ。東京都リーグ1部で戦うことになった2018年から正式にフロント入りすると、チーム強化における中心的な役割を担ってきた。

「そのカテゴリーで勝つには、2つ上のカテゴリーでも優勝争いができるような実力が必要になると考えていました」

岩本GMの言葉通り、南葛SCは積極的な補強に乗り出す。海外リーグを渡り歩いた柴村直弥、ガンバ大阪ユースで10番を背負った安田晃大など“Jリーグクラス”の選手を呼び寄せたのだ。シーズン途中には元日本代表でワールドカップ2大会に出場した福西崇史が現役復帰した。

東京都リーグ1部をぶっちぎりで制すると、関東2部への昇格がかかった関東社会

人サッカー大会に挑んだが、2回戦で敗れて昇格ならず。その翌年は元鹿島アントラーズの青木剛などが加わったが、開幕から波に乗り切れず、まさかの7位に終わった。

「社会人サッカーは簡単ではないということを思い知らされました。1年目に優勝したことで、2年目は各チームから警戒されて、リズムを崩してしまうことが多かった」

南葛SCのチームコンセプトは大空翼の名言である「ボールはともだち」だ。ボールをともだちのように大事にして、自分たちが主導権を握りながら勝っていく。とはいえ、それは茨の道でもあった。

「どんなにボールを支配していても、1発カウンターを食らってやられてしまうこともある。それでも、魅力的なサッカーで上を目指していきたいです」

2020シーズンは東京都リーグ1部で優勝。2年前に涙を飲んだ関東社会人サッカー大会でも優勝し、ついに関東2部昇格を果たした。

少しでも早くJリーグに辿り着きたい

2020年のシーズン前、南葛SCにとって朗報がもたらされた。Jリーグ百年構想クラブに承認されたのだ。申請時点での南葛SCは東京都リーグ1部、つまりJ1から数えて7番目のカテゴリーにいた。地域リーグに上がっていないクラブが申請することも、まして承認されることも異例中の異例といえる。

「なぜ申請したのかというと、自分たちはJリーグを本気で目指しているという覚悟を示すためです。Jリーグからお墨付きを得られたことは、これからの課題を解決するためにも大きな意味を持ってくるでしょう」

東京からJリーグ入りを目指しているサッカークラブにとって、大きな



©NANKATSU SC/ 松岡健三郎

関東リーグ入替戦で大事な2ゴールを決めた佐々木竜太



葛飾をきれいにする「南葛SCクリーンプロジェクト」

基本情報

設立	1983年	ホームタウン	東京都葛飾区
代表	高橋陽一	所属カテゴリー	関東リーグ1部

クラブヒストリー

1983年	常盤クラブとして創設
2012年	クラブ名を葛飾ヴィアードに改称
2013年	『キャプテン翼』作者の高橋陽一が後援会会長に就任、クラブ名を南葛SCに再改称
2015年	東京都2部リーグに昇格
2017年	東京都1部リーグに昇格
2020年	Jリーグ百年構想クラブ認定
2020年	関東リーグ2部昇格
2021年	関東リーグ1部昇格
2022年	稲本潤一、今野泰幸、関口訓充、伊野波雅彦が加入

PROFILE



南葛 SC
GM
岩本義弘



第100回全国高校サッカー選

「第100回全国高校サッカー選手権大会」に東京都代表として出場した関東第一高校と堀越高校。両校の全国での戦いをレポートする。

関東第一がオープニングゲームで6得点の大勝！ 準決勝まで進出の快進撃をみせる



「記念すべき100回目という大会を、国立競技場のピッチの中で経験することができて、本当に指導者冥利に尽きると言えますか、選手たちには感謝しております」。小野貴裕監督は試合後のオンライン会見で、開口一番こう語っている。8年ぶりに高校選手権へ帰ってきた国立競技場。その舞台が用意された開幕戦で、関東第一高校は積み上げてきた実力を存分に発揮してみせた。

キャプテンを務める池田健人の言葉が印象深い。「一番大きいのは楽しみな気持ちでした。緊張はキックオフの5分前、10分前に来ただけで、楽しみがずっと1か月間続いていました」。高校選手権。国立競技場。開幕戦。プレッシャーが掛かってもおかしくないような一戦を楽しむ余裕が、関東第一の選手たちにはあったようだ。

13分に肥田野蓮治のCKから、若松歩が豪快なシュートで先制点を奪うと、これがゴールショーの幕開け。22分には坂井航太が、40+2分には藤井日向がファインゴールを叩き込み、前半だけで3点のリードを手にする。



新国立競技場での開幕戦に挑んだ関東第一イレブン

1回戦
2021年12月28日 15:00 KickOff
国立競技場

関東第一 6-0 中津東

3 (前半) 0
3 (後半) 0

■得点者

13分 若松 歩
22分 坂井 航太
40+2分 藤井 日向
43分 本間 凜
76分 平形 京太
79分 肥田野 蓮治

■大会結果

2回戦 vs 尚志 0(6PK5)00
3回戦 vs 矢板中央 3-20
準々決勝 vs 静岡学園 1(4PK3)10
準決勝 vs 大津 (不戦敗)●



10番の肥田野蓮治が攻撃を牽引

地の芝生の上で、黄色いユニフォームが輝いた。

自身も憧れてきたスタジアムで指揮を執った感慨を、小野監督は感謝とともに明かしてくれた。「スポンサーの方や、運営に当たっている東京都の高体連の先生方のおかげで今の私があるので、今回の大会を1つのスタートとして、また頑張って来年もこのステージへ戻って来たいと思っています」。

以降も尚志高校、矢板中央高校、静岡学園高校を撃破し、準決勝へと駒を進めた関東第一は、チーム内に新型コロナウイルスの陽性者が出てしまったため、出場辞退という形を取らざるを得ず、国立競技場への帰還は叶わなかった。だが、その戦いぶりは東京都代表としての誇りに満ちていた。彼らの堂々とした4試合の奮闘に、大きな拍手を送りたい。



攻撃的なサッカーを貫いて6得点の大勝

手権大会

主催：公益財団法人日本サッカー協会、公益財団法人全国高等学校体育連盟、民間放送 43 社
 日時：2021 年 12 月 28 日～2022 年 1 月 10 日
 会場：国立競技場、駒沢陸上競技場、味の素フィールド西が丘 他

堀越が 2 年連続で初戦突破! 1 点差の ” 完勝劇 ” を演じる



1 回戦
 2021年12月29日 14:10 KickOff
 駒沢陸上競技場

堀越 2 - 1 高知

2 (前半) 1
 0 (後半) 0

■得点者

4分 古澤 希竜(堀越)
 20分 古澤 希竜(堀越)
 25分 西田 慎太郎(高知)

■大会結果

2回戦 vs 長崎総科大附 0-1●

2年連続で初戦を突破した試合後。キャプテンの宇田川瑛琉はオンライン会見で「このコロナ禍の中、記念すべき第100回大会という環境の中で、たくさんの方々の目の前で勝利ができたことをとても嬉しく思います」と胸を張った。全国ベスト8から1年。堀越高校は改めてチームとしての成長を、駒沢陸上競技場で力強く披露した。

高知高校と対峙した1回戦。10番の古澤希竜が違いを見せる。4分に右サイドで中村ルイジのパスを受け、細かいステップでDFを外しながら右足一閃。左ポストを叩いたボールがゴールネットを揺らすと、20分にもカウンターから伊東東のスルーパスを引き出し、鮮やかに2点目をマークする。

「こういう大舞台で絶対に点を決めてやろうと思いつつながら1年間努力してきたので、『本当に努力は裏切らないな』と思いました」と笑った古澤の連続ゴールで、堀越は大きなアドバンテージを引き寄せる。

25分には1点を返されたものの、「前半は0-0、もしくは最悪の場合に0-1というのは、常に想定していました」と宇田川が話せば、「失点することも想定内ですし、失点した後にどうするかということも想定内」と佐藤実監督。2点のリードも、1失点も、もちろん“想定内”。選手たちで考え、行動していくスタイルがより試される全国の舞台でも、彼らは極めて冷静だった。



中盤を支えた日隈ナッシュ大士選手

「自分たちで時間を有効に使いたいから」という理由でロッカールームへ戻らず、ベンチで後半の作戦を選手主導で話していくハーフタイムもいつも通り。意識を統一させた後半は、相手に1本のシュートも許さず、アディショナルタイムには交代カードも巧みに切りながら、2-1でゲームをクローズ。会心の試合運びで、駒沢のピッチに凱歌をあげた。

「とにかく焦らずに、終了のホイッスルが鳴った時に、相手より1点でも多く取れていれば良いよねという準備はしてきました。それが今年のチームの特徴かなと思います」。佐藤監督の言葉に、選手たちと築き上げてきた自信が滲む。堀越はこの数年の経験値から導かれた1点差の“完勝劇”を、見事に演じてみせた。



2年連続で初戦突破を決めた堀越イレブン



2得点で勝利に貢献した古澤希竜選手

サッカーからハラスメントをなくすために

東京都サッカー協会「暴力等根絶相談窓口」に寄せられる相談内容は、直接的な暴力から言葉や態度による暴言、威圧行為が増加しており、未成年者層における発事件数は全体の7割を占めています。これは、全国的な傾向と言えます。

この中でも「ハラスメント」による「精神的な暴力」について考えてみたいと思います。日常の会話のなかで、職場において、スポーツ競技の指導現場（運営、技術、審判など）で本人の意図に関係なく、相手に不快感、尊厳や人格を傷つけるまたは不利益や脅威を与えてしまう「精神的ダメージ」が、人間不信、自殺、引きこもり、自信欠如などに繋がるものと思っています。

- ・監督、コーチ、審判員など地位や役職の優位性を背景に暴言、威圧、叱責、恫喝発言などの指導範囲を超えたパワーハラスメント
- ・コロナ陽性者に対する誹謗中傷、いじめ、差別、不公平な言動によるコロナハラスメント
- ・東京オリンピックでもみられた多くの「ハグ」も互いの健闘を称えるものですが、関係性や相手の受け方によって生じたセクシャルハラスメント

これらのハラスメントは一言で「精神的な暴力」と言えるので

はないでしょうか。精神的な心の傷はダメージが大きく、回復には時間を要すると言われています。また、サッカーから離れてしまう原因にもなっています。

ハラスメントの原因は、リスペクト不足、個人の意識差、勝手な思い込み、男女の感覚差、優位性などでしょうか。指導現場でのパワーハラスメントは特に多く、根底には怒りのメカニズムのなかにある要素（なぜ！ どうして！ できないんだ！ わからないんだ！ こっちは一生懸命なのに！）ならびに勝利、ノルマのプレッシャーまた、最近ではコロナ禍によるストレスが原因と思われます。加えて「教える、伝える、導く」ことの難しさが短絡的な言動に現れていると推測されます。

私は、相談者や被相談者と向き合う度に、自身も指導者の立場で、無意識にハラスメントな言動をしていないかと振り返りながら「お前も指導者の端くれなら“人間性”コミュニケーション技術”を高めてはどうだ」と自己啓発しているところです。

東京都サッカー協会
ウェルフェア・オフィサー・ジェネラル 古賀研二

安田一男顧問の逝去を悼む



本協会の元会長で顧問の安田一男氏が老衰のため2月17日に逝去されました。（享年89歳）

安田氏は、昭和34年に25歳の若さで東京都サッカー協会の理事に就任して以来、長きにわたり東京都のサッカーと共に歩み、普及・発展に寄与した東京サッカーの生き字引でした。

平成9年に理事長に就任し協会の法人化を推進、平成12年に東京都より財団法人の認可を受けると、財団法人としての初代会長に就任し、協会のガバナンス向上、施設整備や競技力向上等に力を注がれました。国民体育大会サッカー競技においては、東京都を三回（平成9年、12年、17年）の総合優勝に導きました。

日本サッカー協会においては、審判委員会委員、理事、評議

員を歴任されました。また、国際サッカー連盟(FIFA) 審判員として16年間活躍され、その後は後進の指導にも熱意をもって取り組まれました。

その他にも、サッカー審判員の資質向上、全日本大学サッカー連盟の設立と運営など、その活躍はサッカー界全体にわたっており、今日のサッカー界の基盤を築かれました。

東京のみならず日本のサッカーの発展のために尽くされたご苦勞に深く感謝申し上げるとともに、心からご冥福をお祈りいたします。

2022年3月

東京都サッカー協会

私たちは 東京都サッカー協会を 応援しています。

初声町和田長浜太陽光発電設備



神奈川県初声町和田（和田長浜海岸側）
2021年4月
取得名義：株式会社スカイ・ランド
（日本水資源開発株式会社関連会社）

人を潤し自然を守る
ECO UP PROJECT

 日本水資源開発株式会社

代表取締役 松永 利明

《東京営業所》

〒150-0031 東京都渋谷区桜丘町30-4 渋谷アジアマンション604

TEL 03-3477-2477 FAX 03-3477-7661

<http://www.yuusui-no-mori.com/>

朝日新聞

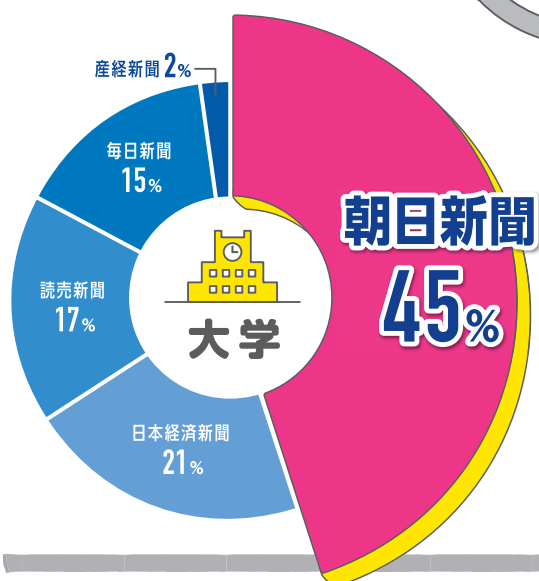
東大理Ⅲ(医学部)に
子ども4人を合格させた

佐藤 ママ

読むべきは
入試に出る新聞!!

佐藤 亮子 (さとう・りょうこ) 奈良県在住。津田塾大学を卒業後、私立高校で2年間の英語教師を経験。3男1女全員が東京大学理科三類に合格。子育て方法が話題となり、「灘→東大理Ⅲ」の3兄弟を育てた母の秀才の育て方(KADOKAWA)、「決定版・受験は母親が9割」(朝日新聞出版)などを出版。

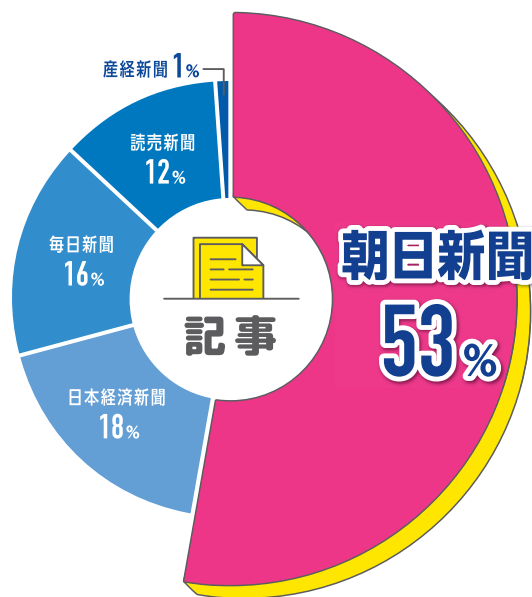
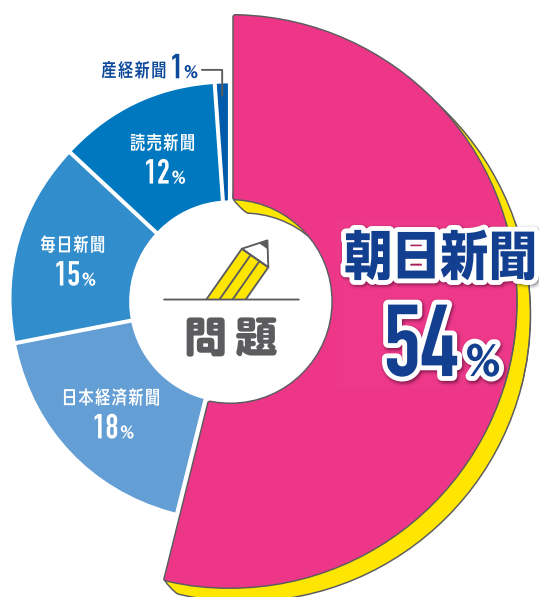
2021年度も
大学入試出題数は
朝日新聞が最多!



全国紙の2021年度大学入試出題実績

多くの大学の入試問題に朝日新聞の記事が登場。理系・文系を問わず、さまざまな学部や学科の入試問題で採用されています。

※大学通信調べ(2021年5月31日現在) 全国の大学にアンケート調査。対象は読売新聞(読売新聞オンライン)、朝日新聞(朝日新聞デジタル)、毎日新聞(毎日新聞デジタル)、日本経済新聞(日経電子版)、産経新聞(産経ニュース)。回答数792。



朝日新聞のご購読は

<http://www.asahi33.com>